

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	③-24	実施計画番号		事業開始年度	平成26年度
事務事業名	狭あい道路の解消対策			事業終了年度	
担当課名	土木課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	十和田市協働による狭あい道路の拡幅整備の推進に関する条例		関連事務事業		
背景や経緯等	道路の幅員4m未満の道路(建築基準法第42条第2項指定道路)に接して建築物を建てる際は、緊急車両の通行等のため、道路中心から2m後退(セットバック)して建築物を建てることと定められている。この狭あい道路の解消のため、後退用地を確保している市民を対象に間口単位で後退用地の寄附等により拡幅整備を実施する事業である。				
事務事業の目的	市民の安全並びに良好な市街地の形成及び住環境を確保する。				
実施状況	狭あい道路間口18箇所の整備実施目標に対し45箇所の申請となった。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	3	3	3
	活動日数(日)	50	50	50
	人件費(千円)	5,400	5,400	5,400
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		10,183	18,898	28,600

【指標】

活動指標	活動指標名①		申請件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件	12	45	
	活動指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
成果指標	成果指標名①		申請件数			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			件	18	18	18
				12	45	
				67%	250%	
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由				
妥当性	①	市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">存在意義の見直しの余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">広報掲載、市民PRを行い制度内容の周知を図っていく。</td> </tr> </table>	存在意義の見直しの余地	0 / 4	広報掲載、市民PRを行い制度内容の周知を図っていく。	
	存在意義の見直しの余地	0 / 4								
広報掲載、市民PRを行い制度内容の周知を図っていく。										
②	実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2	4					
有効性	③	活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">成果向上の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">計画以上に進んでいる。</td> </tr> </table>	成果向上の余地	0 / 6	計画以上に進んでいる。	
	成果向上の余地	0 / 6								
	計画以上に進んでいる。									
④	成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6					
⑤	事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2						
効率性	⑥	事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">コスト削減の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 6</td> </tr> <tr> <td colspan="2">拡幅整備については、徹底したコスト縮減に努めている。</td> </tr> </table>	コスト削減の余地	0 / 6	拡幅整備については、徹底したコスト縮減に努めている。	
	コスト削減の余地	0 / 6								
	拡幅整備については、徹底したコスト縮減に努めている。									
⑦	他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6					
⑧	民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2						
公平性	⑨	受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: right;">受益者負担適正化の余地</td> <td style="text-align: center;">0 / 4</td> </tr> <tr> <td colspan="2">条例に則り実施している。</td> </tr> </table>	受益者負担適正化の余地	0 / 4	条例に則り実施している。	
	受益者負担適正化の余地	0 / 4								
条例に則り実施している。										
⑩	受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2	4					
現在の適性					20 / 20	改善の余地	0 / 20			

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **20** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **0** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

狭あい道路の拡幅整備を推進し、市民の安全・良好な市街地の形成及び住環境を確保するため。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

必要な調査を行うとともに、建築主、所有者等からの協力を得られるよう啓発に努め、市民の安全・良好な市街地の形成及び住環境を確保する。